

平成30年第3回(9月)大郷町議会定例会一般質問通告書

目 録

1. 大友 三男 議員
 - 1) 大郷町まち・ひと・しごと創生総合戦略について
 - 2) 町道、赤道の整備状況について

2. 千葉 勇治 議員
 - 1) 子育て支援の拡充について
 - 2) 幼小中の給食の実態とその安全性について
 - 3) 「主要農作物種子法」の再制定について

3. 赤間 滋 議員
 - 1) 大郷町総合計画について
 - 2) 学校教育と環境の充実について

4. 赤間 茂幸 議員
 - 1) 大郷町総合計画及びまち・ひと・しごと創生総合戦略について

5. 若生 寛 議員
 - 1) 人・農地プランの現状とこれからについて
 - 2) 道の駅おおさと「改革プラン」の進捗状況について

6. 和賀 直義 議員
 - 1) 子どもの生命を守る教育行政について
 - 2) 人生いきいき100年時代を目指して

7. 石川 壽和 議員
 - 1) メタボ等の対策について
 - 2) コーディネーター等の設置について
 - 3) ショッピングセンターの誘致について

8. 佐藤 千加雄 議員
 - 1) 今後の町づくりのビジョンについて

通 告 要 旨	備 考
<p>1. 大郷町まち・ひと・しごと創生総合戦略について</p> <p>平成30年3月定例会で「どのように人口減少対策に取り組むのか」との赤間議員の質問に、町長は『大郷町まち・ひと・しごと創生総合戦略』を基本とし、公約を組み入れた中で、定住促進の具体的な施策を講じていく」と答弁している。この答弁を踏まえて、以下4点について伺う。</p> <p>(1) 「産業振興により安定した雇用を創出し、活力のあるまちを創る」について 町内の雇用創出について、今後どのような形で雇用創出を実現していくのか伺う。</p> <p>(2) 「移住・定住促進等で新しい人の流れを作り、持続的に発展するまちを創る」について 移住定住推進事業について、今後、恵の丘分譲事業のほかにもどのような移住定住促進策を講じ、町外の方に移住して頂き、人口増を図っていくのか伺う。</p> <p>(3) 「若い世代が結婚・出産・子育てを安心してできるまちを創る」について 結婚・出産・子育て支援の中で、特に子育て世代の意見が多かった子育て支援事業について、平成31年度中に保育園や幼稚園入園時の制服や運動着の無償支給を行うなど、更なる子育て支援の拡充を図るべきと思うが、町長の考えを伺う。</p> <p>(4) 「時代に合った暮らしやすく住み続けたいまちを創る」について</p> <p>①平成27年9月に「まち・ひと・しごと創生総合戦略事業」の参考として、「大郷町で暮らすための条件」のアンケート調査をしたが、若い世代の意見、要望を町長はどのように捉え、どのような対策を講じていくのか。</p> <p>②町民会議について、役場で開催して町民に来ていただくというスタイルではなく、町長自ら各地区に出向いたほうが、町民の方々から現実的な意見、要望を聞くことができ、その意見を町政に反映させることができると考えるが、町長の考えを伺う。</p>	<p>一問一答方式</p>

2. 町道、赤道の整備状況について

平成 30 年 3 月定例会で町民の生活に密接している、町道、赤道を含む生活道路の舗装整備や、歩行者の安全確保が難しい歩道の無い町道の路肩ラインを二重にするよう要望したところ、町長は「道路整備に関する条例、要綱など、一部見直しなども考え、少ない予算で出来る簡易舗装など町道や生活道路の整備を考えたい」と答弁をしていたが、3 月以降生活道路の舗装や二重ライン整備が何件実施されたのか、更に今後どのような計画で実施していくのか町長に伺う。

通 告 要 旨	備 考
<p>1. 子育て支援の拡充について</p> <p>(1) すべての小・中学校の教室にエアコンの設置で学習に集中できる環境整備を。</p> <p>毎日のように高温の記録更新が続いており、全国的に想定外の異常環境が、子どもたちの健康や学習環境に甚大な影響を及ぼしているものと考えます。そこで次の点について伺う。</p> <p>①教室内の温度状況の調査状況と、その温度調整についてどのような対策を講じているのか。</p> <p>②熱中症等で健康を害し、保健室や救急車等で搬出された小中学生の実態は。</p> <p>③エアコン設置など早急な改善策が求められるが、今後の対策等について伺う。</p> <p>(2) 幼・保連携型認定こども園の推進は対象となる乳幼児保護者の意見をよく聞いて対応せよ</p> <p>①教育民生常任委員会で、子育て支援の先進地と称される北陸地方の3県を所管調査し、その取り組みなどについて調査する中で、まずは保護者のニーズがどこにあるのか、アンケートなどを通じて調査し、幼保連携型認定こども園を開園するまで数年間にわたり慎重な議論・検討が行われている。しかし本町では平成32年4月の開園に間に合うよう、保護者に対する意識調査もほとんど行わないまま進められている。意見集約は行われているのか。</p> <p>②民間委託により、町との関わりが希薄になるのではという保護者の不安の声も聞かれる。町はそれらの意見を払しょくする対策として、どのような対策を考えているのか。</p> <p>③年々0歳児～3歳児未満の入所（園）が増加傾向にあるなかで、保育による事故が近年全国的に問題になっている。それだけに、より経験に富む保育士による養育経験が求められているが、それらの状況について委託先を検討する際に町はどのように考慮されているのか。</p> <p>④本町では現在「学校教育課」と「町民課」の連携により幼保連携型認定こども園の準備に当たっているが、二つの窓口は機敏性が求められる子育て現場として、また保護者にとっても相談しづらい面が多いと考えられる。将来、保護者のニーズに合わせた保育体制を構築する上でも所管課を一本化すべきと考えるが所見を伺う。</p>	<p>一問一答方式</p>

<p>2. 幼小中の給食の実態とその安全性について</p> <p>日本の食糧自給率は38%で、「ラーメンは水だけが国内産」と言われるほど、多くの食材が輸入に依存している一方、輸入食品の9割以上が無検査で輸入されていることが明らかになっている。</p> <p>①学校給食の食材の仕入れ先の国内（町内・県内）・国外等の割合について、米・野菜・肉類などの主な品目の平成29年度の実態について伺う。</p> <p>②輸入食品の安全性が問われているがその安全性のチェックについて町はどのように考えているのか伺う。</p> <p>③子ども達の給食に対する意見を学校給食の管理・運営にどのように活かされているのか伺う。</p> <p>④子どもの食物アレルギー対策のその後と、今後の対策方針について伺う。</p>	
<p>3. 「主要農作物種子法」の再制定について</p> <p>稲、麦、大豆などの種子の安定供給を行政が保障してきた「種子法（主要農作物種子法）」が4月1日付で廃止され、種子供給が民間主導になることに、農家や消費者から懸念の声が高まっている。</p> <p>このことは、食糧供給全般にわたる問題であり、とりわけ農を基幹産業とする本町にとっても町の死活問題になりかねない。この状況を見据え、すでに県によっては条例などでこれまでの種子法を実質的に引き継ぐ動きも出ている。町長として、種子法について再び廃止以前に戻すよう宮城県や政府に働きかけるべきと考えるが、次の件について伺う。</p> <p>①「主要農作物種子法」廃止に対する町長の考えは。</p> <p>②宮城県や日本政府に対し、「主要農作物種子法」の再制定を求めよう働きかけるべきと考えるが所見を伺う。</p>	

通 告 要 旨	備 考
<p>1. 大郷町総合計画について</p> <p>「大郷町総合計画」は、第一次田中町政時代に策定された「大郷町第二次新長期総合計画」をうけて、赤間町政時代に、パブリックコメントを経て策定されました。その中で地方から大都市へ人口が集中する事で、地方が衰退していくなかで、大郷町総合計画は、まちづくりの理念と基本を示すもので、一人ひとりが考え行動し、未来を創る町づくりとして、町民が主役となり、自然、文化、産業が調和したいきがいと喜び、心の豊かさが感受でき、持続的に躍進する大郷町の実現を目指すとして述べている。</p> <p>そこで</p> <ul style="list-style-type: none"> ①赤間町政が策定した大郷町総合計画について、町長はどのように受け止め、どのような所見をお持ちか伺う。 ②本町の人口ビジョンと人口目標について ③若者定住化の推進について 	<p>一問一答方式</p>
<p>2. 学校教育と環境の充実について</p> <p>子どもたちは未来からの使者であり、その本町の子どもたちにこれから生きていく社会において必要な能力を身につけてあげることが大人の務めであり一番大事なことであると考えている。</p> <p>そこで</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学力向上対策について ②小・中学校の教室にエアコン設置を ③本町の目指す幼保連携型こども園について 	

通 告 要 旨	備 考
<p>1. 大郷町総合計画及びまち・ひと・しごと創生総合戦略について</p> <p>まちづくりの基本理念は、これから進めるまちづくりの基本的な方向性を示すものである。</p> <p>総合計画においては、『「自力」一人ひとりが考え 行動し 未来を創るまちづくり』と定めている。そのなかで「総合計画」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」について以下の4点を伺う。</p> <p>(1) 「産業振興により安定した雇用を創出し、活力あるまちを創る」について 企業誘致の促進事業の現在までの成果と課題。また今後の目標について伺う。</p> <p>(2) 「移住・定住の促進等で新しい人の流れをつくり、持続的に発展するまちを創る」について 移住・定住の促進事業の現在までの成果と課題。今後の目標について伺う。</p> <p>(3) 「教育のさらなる充実で心豊かなまち」について 安全安心な学校環境づくりの推進における、今後の部活動のあり方と体力向上、学力向上の対策と教育環境の改善（エアコン（空調）設置）について伺う。</p> <p>(4) 「協働のまちづくりで持続的に発展するまち」について 安全安心な防災体制の強化が求められるなか、現在の防災訓練と防災マップで対応は十分なのか。また、見直す考えはあるのか。見直す場合のスケジュールを考えているのか伺う。</p>	<p>一問一答方式</p>

通 告 要 旨	備 考
<p>1. 人・農地プランの現状とこれからについて</p> <p>米政策の転換後、初めての収穫を迎えるが、本町の基幹産業である農業は大変厳しい状況は変わっていない。そこで地域農業を維持するのに欠かせない、「人・農地プラン」の現状と方向性について以下伺う。</p> <p>①担い手の状況はどのような構成となっているのか ②水田農業がメインであるが、水田を利用した他品目への分散も必要と思うが考えを伺う</p>	<p>一問一答方式</p>
<p>2. 道の駅おおさと「改革プラン」の進捗状況について</p> <p>①物産館改修並びに駐車場拡張の進捗状況は ②産直の運営方法の考え方を伺う</p>	

通 告 要 旨	備 考
<p>1. 子どもの生命を守る教育行政について</p> <p>(1) 通学路安全確保のための対策と検証について</p> <p>①平成 24 年に登下校時に子供が交通事故に巻き込まれる事件が多発したことにより平成 26 年に交通安全プログラムが策定された。危険箇所と対策についてその後の進捗の検証は。</p> <p>②大阪北部を震源とする地震で女子児童がなくなる事故が発生し、通学路のブロック塀等の安全点検の実施が報道された。本町の状況について伺う。</p> <p>(2) 通学路の安全対策と防犯カメラ設置の考えについて</p> <p>新潟での女子児童殺害事件、子どもが巻き込まれる犯罪が後を絶たない。予防措置の施策について伺う。又犯罪抑止には防犯カメラの効果が大きい。本町での通学路に防犯カメラ設置の考えは。</p> <p>(3) 小中学校の教室にエアコンの設置について</p> <p>各地で記録的な猛暑が続いている。子どもを熱中症から守り、学力向上にも効果が期待できると考え、各教室にエアコンの設置を。</p> <p>(4) 心肺蘇生教育の普及推進により突然死ゼロを</p> <p>児童生徒の心停止が毎年 100 名近く発生しているとのこと。本町での児童生徒への心肺蘇生教育の現状と今後の方向性、AED の設置状況、教職員の AED 講習の実施状況について伺う。</p>	<p>一問一答方式</p>
<p>2. 人生いきいき 100 年時代を目指して</p> <p>(1) 高齢者の運転免許証返納について</p> <p>テレビや新聞等で高齢者の痛ましい事故が報道されている。年を重ねるにつれて運動能力、反射神経、判断能力が低下します。免許証返納は本人の決断、家族よりすすめられるなど様々ある。以下伺う。</p> <p>①免許証返納実態調査と本町の考えについて</p> <p>②高齢者の移動手段に関しての助成と施策は</p> <p>(2) 健康寿命の延伸の為の施策について</p> <p>加齢に伴う虚弱化（フレイル）を遅らせ、「健康寿命」の延伸を図ることが重要だ。虚弱化・介護予防には「食べる」「歩く」</p>	

「人と会話する」ことにターゲットを定め、「適切な栄養の摂取」「体力の維持・増進」「社会参加の促進」が重要である。以下伺う。

- ①フレイル予防についての普及・啓発をどのように進めるのか
- ②高齢者健診の特定健診項目に生活機能評価項目（低栄養、休まず歩ける距離、歩行速度、片足立ち、人とのつながりなど）を追加すべきでは
- ③健康づくり応援手帳等の作成・配布について
- ④地域ぐるみでフレイル予防運動を展開すべきでは

通 告 要 旨	備 考
<p>1. メタボ等の対策について</p> <p>メタボ等の対策について、次の4点について伺う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①メタボ対象者数の、ここ3年間の推移について ②メタボ対象者への指導内容とその効果と考察について ③職員でメタボ対象者の意識とその職員への指導について ④歯周病検診の現状について 	<p>一問一答方式</p>
<p>2. コーディネーター等の設置について</p> <p>地域おこしや移住定住促進に、地域おこし協力隊やコーディネーター制度を活用して実績を上げている自治体も多い。移住促進員、地域おこし協力隊、地域おこし企業人等には、特別交付税措置もある。大郷町でもこのような制度を活用し、地域おこし、移住定住促進に取り組むべきと思うが所見を伺う。</p>	
<p>3. ショッピングセンターの誘致について</p> <p>移住定住促進において、ことさら若い人たちの移住定住に不可欠なのがショッピングセンターの誘致だと考えている。普段の買い物に不便を感じるというアンケート結果もあるとのこと、誘致についての考えを伺う。</p>	

通 告 要 旨	備 考
<p>1. 今後の町づくりのビジョンについて</p> <p>田中町政1年を振り返り、2年目に向けた町づくりのビジョンを伺う。</p> <p>①産業の振興は町づくりの根幹であるが、町長は基本的な対策をどう考えて取り組むのか。新しい活力のあるまちを創る施策について伺う。</p> <p>②新しい人の流れをつくり、持続的に発展する町を創るため、流入人口の増加を図る施策について、これまでの成果と今後の新たな対策について伺う。</p> <p>③人口減少が進む中、流出人口を減らす対策が急務と考える。現在取り組んでいる施策の効果と、現状を踏まえた新たな対策、施策をどう考えていくのか伺う。</p>	<p>一問一答方式</p>